



第2次能代市総合計画
(前期基本計画)

まちづくり評価書

令和元年11月

能代市総合計画市民協働会議

目 次

I 本書の説明

目標指標・評価等の見方	1
-------------	---

II 評価

目標指標等の評価 集計表	2
--------------	---

1 元気で魅力あるまち

(1) 地域資源を活かした特色あるまちづくり	3
(2) みんなが参加し活躍する地域づくり	4
(3) 心豊かな暮らしを支える健康づくり	6
(4) 気軽に親しみ楽しめるスポーツ	8

2 笑顔で人が輝くまち

(1) 地域や社会で支える子ども・子育て	9
(2) 次代を担う子どもを育てる学校教育	10
(3) 地域や社会に活かす生涯学習・文化	12
(4) 地域で活躍する元気な高齢者	14
(5) 自立した暮らしを支える社会福祉・社会保障	16

3 豊かで活力あるまち

(1) 地域特性を活かした産業創出	18
(2) 雇用とにぎわいを生み出す商工業	19
(3) 豊かな自然や伝統・文化を活かした観光	21
(4) 力強く持続する農業	22
(5) 山・川・海を生かす林業・木材産業・水産業	24

4 安心で暮らしやすいまち

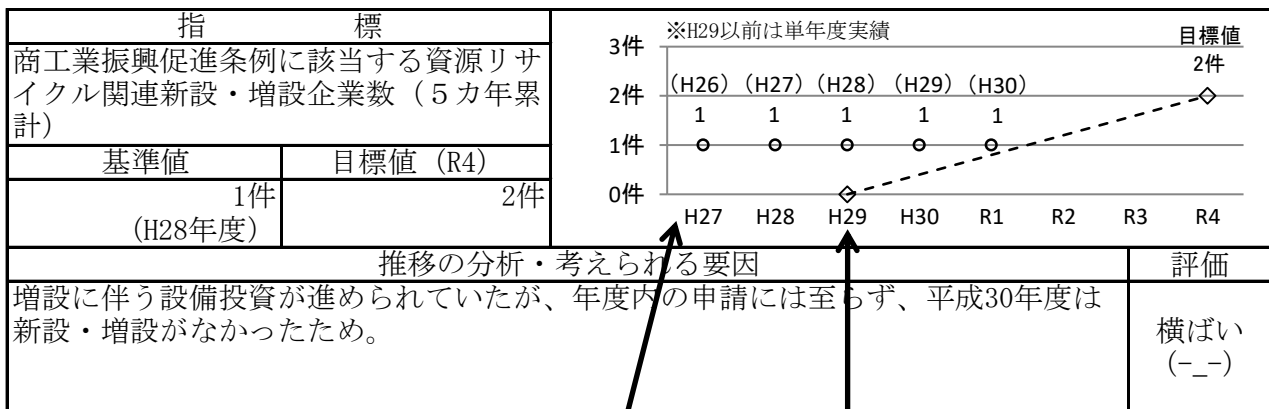
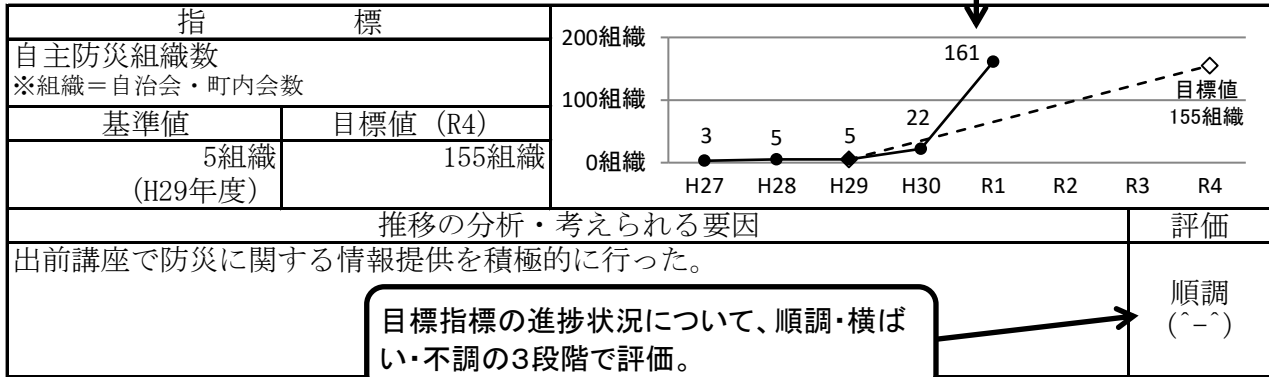
(1) 安全な暮らしを守る防災・防犯体制	26
(2) 機能的で利用しやすい道路・交通ネットワーク	28
(3) 快適で暮らしやすい住環境	29
(4) 自然と共生し持続できる環境・衛生	31
(5) 調和のとれた有効な土地利活用	33
(6) 住民サービスに資する効率的な行財政基盤	34

I 本書の説明

目標指標・評価等の見方

過去の実績と目標値をグラフで表示

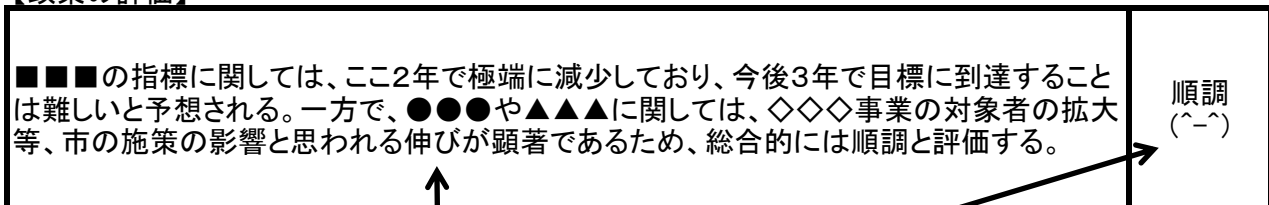
【基本計画の目標指標】



グラフの横軸は、実績値を把握する年度実績。年度と異なる場合は、カッコ書きで表示。

累計の目標指標は、H30年度実績値からの累積となるため、グラフの起点となるH29年度は便宜上ゼロ値としている。

【政策の評価】



政策の評価を記載。左欄は評価の理由、右欄には3段階評価を記載。

Ⅱ 評価

目標指標の評価 集計表

基本目標	合計	順 調	横ばい	不 調	未確定
		(^_^)	(-_-)	(>_<)	
1 元気で魅力あるまち (地域づくり・健康づくり)	17	3	9	4	1
2 笑顔で人が輝くまち (人材育成・生涯活躍)	21	5	6	10	0
3 豊かで活力あるまち (産業振興・雇用創出)	20	10	6	3	1
4 安心して暮らしやすいまち (生活環境・行財政)	22	8	12	1	1
合 計	80	26	33	18	3

政策の評価 集計表

基本目標	合計	順 調	横ばい	不 調	未確定
		(^_^)	(-_-)	(>_<)	
1 元気で魅力あるまち (地域づくり・健康づくり)	4	0	4	0	0
2 笑顔で人が輝くまち (人材育成・生涯活躍)	5	0	3	2	0
3 豊かで活力あるまち (産業振興・雇用創出)	5	3	1	1	0
4 安心して暮らしやすいまち (生活環境・行財政)	6	2	4	0	0
合 計	20	5	12	3	0

【評価区分の説明】

○順 調 … 目標値または当該年度の仮の目標値（以下「目標値等」という。）に達している。

○横ばい … 目標値等との間に隔たりはないものの、目標値等に達しておらず、基準値と大差ない。

○不 調 … 目標値等に達しておらず、目標値等との間に隔たりがある。

○未確定 … 国や県の統計等の公表時期が到来していないため、今回確定できない。

(基本目標1 元気で魅力あるまち)

政策(1)	地域資源を活かした特色あるまちづくり
-------	--------------------

【基本計画の目標指標】

指 標	100.0% 50.0% 0.0%	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4
能代市を他に誇れると思う市民の割合 (市民意識調査)	目標値 50.0%	
基準値	目標値 (R4)	
—	50.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
風の松原、米代川、きみまち阪などの特徴的な地域資源は多く点在しているが、日常に溶け込んでいて、誇りと思えるところまで意識が醸成されていないと考えられる。		不調 (>_<)

指 標	100.0% 50.0% 0.0%	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4
このまちが住みやすいと思う市民の割合 (市民意識調査)	目標値 60.0%	
基準値	目標値 (R4)	
51.2% (H29年度)	60.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
雇用対策や子育て支援等、住みやすさに繋がる施策を拡大してきていると同時に、住民ニーズも早いスピードで多様化していることが考えられる。		横ばい (-_-)

指 標	60世帯 40世帯 20世帯 0世帯	※H29以前は単年度実績 (H29) (H30) 目標値 25世帯	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4
市への相談を経て移住した世帯数(5カ 年累計)	(H27) (H28) 21 (H30)		
基準値	目標値 (R4)		
6世帯 (H28年度)	25世帯		
推移の分析・考えられる要因			評価
首都圏での移住相談会への積極的な参加と移住支援を行っていることが移住希望者・市民に浸透したことにより、増えたものと考えられる。			順調 (^_^)

【政策の評価】

市の魅力について、市民に対する情報発信が十分でないものと考えられる。移住者への聞き取り等、外部的な視点も取り入れ、市民が気づかない能代の魅力を再発見できる取組の検討が必要である。 一方で、移住者へのPRや支援は積極的に行われていると考えられ、その成果が指標の推移にも表れている。 移住後に他の自治体に移住したり、元の自治体に帰った例がないか等の分析も必要ではないか。 「能代市を他に誇れると思う市民の割合(市民意識調査)」は、暮らし全般についてのことなのか、地域資源についてのことなのか分からないので、誇れるものが何かという問いかけが必要である。	横ばい (-_-)
---	--------------

(基本目標1 元気で魅力あるまち)

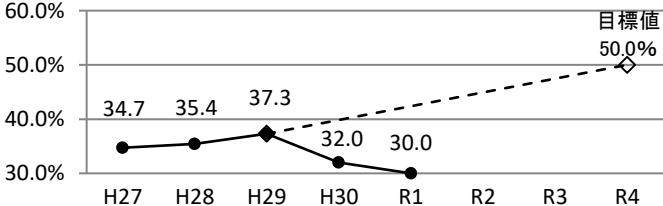
政策(2)	みんなが参加し活躍する地域づくり
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

指 標	90団体	70団体	50団体	目標値
市民活動支援センター登録団体数	(H26) 56	(H27) 63	(H28) 70	(H29) 74
基準値	70団体	80団体		
目標値(R4)				
70団体 (H28年度)				
80団体				
推移の分析・考えられる要因				評価
市民活動支援センター登録団体の活動内容の周知や資材貸出し等が充実し、登録団体からの口コミにより増加したものと考えられる。				順調 (^_^)

指 標									
ボランティアセンター登録者数		4,000人	3,792	3,168	3,139	3,138	3,020	目標値	3,300人
基準値	目標値 (R4)	3,000人							
3, 139人 (H29年度)	3, 300人	2,500人 <th colspan="7"></th>							
推移の分析・考えられる要因									評価
高齢化による団体の解散が減少の主な要因だと思われる。									横ばい (-_-)

指 標	85.0%	80.0%	75.0%	目標値
自治会・町内会加入率	77.9	78.1	77.2	80.0%
基準値	77.9%	80.0%		
目標値(R4)				
77.9% (H29年度)				
80.0%				
推移の分析・考えられる要因				評価
チラシ配布等により自治会・町内会への加入呼び掛けを行っているが、賃貸入居者等の加入は難しく、ほぼ横ばいの状態である。				横ばい (-_-)

指 標		
自治会・町内会やボランティア活動など 市民活動に参加することを心がけている 市民の割合（市民意識調査）		
基準値	目標値（R4）	
37.3% （H29年度）	50.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
自治会・町内会の役員等、活発に市民活動を行っている人材は市全域で固定化する傾向にあること、そういった人材が高齢化により活動できなくなっていることが要因として考えられる。		不調 (>_<)

指 標		<table><caption>女性就業率の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>就業率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H29</td><td>54.7</td></tr><tr><td>H30</td><td>55.1</td></tr><tr><td>R1</td><td>60.0</td></tr><tr><td>R4</td><td>60.0</td></tr></tbody></table>	年度	就業率 (%)	H29	54.7	H30	55.1	R1	60.0	R4	60.0
年度	就業率 (%)											
H29	54.7											
H30	55.1											
R1	60.0											
R4	60.0											
女性就業率（市民意識調査）												
基準値	目標値（R4）											
54.7% (H29年度)	60.0%											

推移の分析・考えられる要因		評価
労働に関する法や制度の整備・充実のほか、社会全体の意識の変化によるものと考えられる。		順調 (^-^)

【政策の評価】

自治会・町内会の必要性が若い世代に伝わっておらず、そうした活動に煩わしさを感じている人や、地域の繋がりよりも自ら主体的に活動したいと感じている人が多くなっていると考えられる。 地域づくりを持続していくためには、ボランティアや自治会等の若返りを図るための仕掛けづくりや、市民活動団体の横の連携、意識の醸成が必要である。 就業率については、女性に限定せず、若い世代の就業率を上げていかなければならない。	横ばい (-_-)
--	--------------

(基本目標1 元気で魅力あるまち)

政策(3)	心豊かな暮らしを支える健康づくり
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

指 標		<table><caption>からだが健康だと思う市民の割合(%)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr></thead><tbody><tr><td>値</td><td>63.1</td><td>56.6</td><td>61.6</td><td>60.0</td><td>61.8</td><td>-</td><td>-</td><td>70.0</td></tr></tbody></table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	値	63.1	56.6	61.6	60.0	61.8	-	-	70.0
年度	H27		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4											
値	63.1		56.6	61.6	60.0	61.8	-	-	70.0											
からだが健康だと思う市民の割合（市民意識調査）																				
基準値	目標値（R4）																			
61.6% （H29年度）	70.0%																			
推移の分析・考えられる要因																				
昨年と比較すると微増である。積極的な健診の受診勧奨や環境整備等により、生活習慣病予防等、健康に関する意識は高まりつつあると考える。しかし、健診受診や生活習慣改善等の行動に結びついていない市民がまだ多いことが予想される上、高齢化率の上昇等で、割合が大きく伸びない要因の一つと考えられる。																				
評価																				
横ばい（--）																				

指 標		<table><caption>心が健康だと思う市民の割合(%)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr></thead><tbody><tr><td>値</td><td>59.2</td><td>57.5</td><td>58.6</td><td>57.1</td><td>59.2</td><td>-</td><td>-</td><td>70.0</td></tr></tbody></table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	値	59.2	57.5	58.6	57.1	59.2	-	-	70.0
年度	H27		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4											
値	59.2		57.5	58.6	57.1	59.2	-	-	70.0											
心が健康だと思う市民の割合（市民意識調査）																				
基準値	目標値（R4）																			
58.6% （H29年度）	70.0%																			
推移の分析・考えられる要因			評価																	
心の健康には、身体状況、社会経済状況、住居や職場の環境、対人関係等、多くの要因が影響している。昨年度と比較すると微増であるが、ストレスを感じている方、休養不足の方、うつ等の病気の方、人とのつながりが希薄な方等が少なくないと考えられる。			横ばい （-）																	

指 標		<table><caption>がん死亡率(人口10万人対)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr></thead><tbody><tr><td>値</td><td>497.5</td><td>484.9</td><td>462.3</td><td>534.9</td><td>493.8</td><td></td><td></td><td>400.0</td></tr></tbody></table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	値	497.5	484.9	462.3	534.9	493.8			400.0
年度	H27		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4											
値	497.5		484.9	462.3	534.9	493.8			400.0											
がん死亡率(人口10万人対)																				
基準値	目標値 (R4)																			
462.3 (H27年)	400.0																			
推移の分析・考えられる要因																				
昨年度と比較すると減少しているが、過去5年の推移を見ると増減を繰り返している状況。食習慣の改善や運動の習慣化、禁煙等の取組を継続(強化)する必要があると考えられる。また、加齢に伴い罹患リスクが高くなることから、高齢化と人口減も影響し、がん死亡率が高いまま推移する要因と考えられる。																				
評価																				
横ばい (-)																				

指 標		<table><caption>自殺死亡率(人口10万人対)</caption><tr><th>年度</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th></tr><tr><td>値</td><td>21.2</td><td>26.9</td><td>33.0</td><td>24.1</td><td></td><td></td><td></td><td>県平均以下</td></tr></table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	値	21.2	26.9	33.0	24.1				県平均以下
年度	H27		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4											
値	21.2		26.9	33.0	24.1				県平均以下											
自殺死亡率（人口10万人対）																				
基準値	目標値（R4）																			
33.0 (H27年)	県平均以下																			
推移の分析・考えられる要因			評価																	
数年前から20～40の範囲で増減している。自殺総合対策推進センター作成の本市の自殺プロファイルにおいては、「高齢者」「生活困窮者」「無職者・失業者」「勤務・経営」に係る取組が重点課題とされている。増減の要因については解明し難い。			不調 (>_<)																	

指 標		<table><thead><tr><th>年度</th><th>喫煙率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>22.9</td></tr><tr><td>H28</td><td>22.9</td></tr><tr><td>H29</td><td>19.1</td></tr><tr><td>H30</td><td>19.0</td></tr><tr><td>R1</td><td>19.2</td></tr><tr><td>R4 (目標値)</td><td>10.0</td></tr></tbody></table>	年度	喫煙率 (%)	H27	22.9	H28	22.9	H29	19.1	H30	19.0	R1	19.2	R4 (目標値)	10.0
年度	喫煙率 (%)															
H27	22.9															
H28	22.9															
H29	19.1															
H30	19.0															
R1	19.2															
R4 (目標値)	10.0															
喫煙率（市民意識調査）																
基準値	目標値（R4）															
19.1% （H29年度）	10.0%															

推移の分析・考えられる要因	評価
昨年度と比較するとほぼ横ばいである。喫煙率が下がらない要因として、禁煙に無関心な方と、禁煙したいがニコチン依存や心理、行動的依存等により、禁煙が非常に困難となっている方が多いと考えられる。健康増進法の改正や秋田県受動喫煙防止条例の制定等により、今後、禁煙の無関心層に変化が見込まれると予想する。	横ばい （--）

指 標		<table><thead><tr><th>年度</th><th>受診率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>(H26)</td><td>28.1</td></tr><tr><td>(H27)</td><td>28.2</td></tr><tr><td>(H28)</td><td>28.8</td></tr><tr><td>(H29)</td><td>30.4</td></tr><tr><td>目標値 (R4)</td><td>55.0</td></tr></tbody></table>	年度	受診率 (%)	(H26)	28.1	(H27)	28.2	(H28)	28.8	(H29)	30.4	目標値 (R4)	55.0
年度	受診率 (%)													
(H26)	28.1													
(H27)	28.2													
(H28)	28.8													
(H29)	30.4													
目標値 (R4)	55.0													
特定健康診査の受診率														
基準値	目標値 (R4)													
28.2% (H27年度)	55.0%													

推移の分析・考えられる要因		評価
※11月にR1 (H30) の数値が確定する。		—

【政策の評価】

市の施策として健康づくりの取組は多く行われているが、なかなか結果には結びついていない状況である。健康については長期的な取組と分析が必要であるため、各事業や指標の推移を見守っていく必要がある。 自殺予防の取組は待ちの姿勢ではなく、自らが困っている人に出向いていける仕組みづくりが必要だと考えるが、サービス提供者の心のケアや、民生委員等の見守る側の高齢化にも十分な配慮を行わなければならない。	横ばい （--）
--	-------------

(基本目標1 元気で魅力あるまち)

政策(4)	気軽に親しみ楽しめるスポーツ
-------	----------------

【基本計画の目標指標】

指 標	図 表
週1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合(市民意識調査)	
基準値	目標値(R4)
50.4%(H29年度)	60.0%
推移の分析・考えられる要因	
チャレンジデー等の事業を通じて、習慣的にスポーツに親しみ楽しむことが徐々に市民に周知されてきていると考えられる。	
評価	
横ばい(--)	

指 標	図 表
優良競技者・団体表彰数(栄光賞)	
基準値	目標値(R4)
278人(H28年度)	300人
推移の分析・考えられる要因	
小学生の授賞者が増加した。要因としては、全県規模の大会が、中学生や高校生に比べて、小学生は増えているためと考えられる。	
評価	
横ばい(--)	

指 標	図 表
スポーツ施設年間利用者数	
基準値	目標値(R4)
322,946人(H28年度)	350,000人
推移の分析・考えられる要因	
施設の閉鎖や改修工事での利用休止があるなかで利用者が増えており、市民のスポーツに親しむ機会が増えていると考えられる。今後は、全県大会等の大規模な大会の開催有無、施設の閉鎖や改修工事などによる変動も考えられる。	
評価	
不調(>_<)	

【政策の評価】

スポーツ施設が団体等の利用で混雑しており、休日の利用が難しいことを踏まえると、順調の指標がないとはいえ、取組自体はある程度の評価ができる。 施策は現状維持で良いと思われるが、運動の機会が少ない中高年に対する情報発信や啓蒙活動を工夫することにより、さらに数値が改善されるものと思われる。 また、スポーツは心身の健康につながるため、政策をまたいだ連携が必要だと考える。	横ばい(--)
---	---------

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

政策(1)	地域や社会で支える子ども・子育て
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

指 標		<table><thead><tr><th>年次</th><th>婚姻数</th></tr></thead><tbody><tr><td>(H26)</td><td>170</td></tr><tr><td>(H27)</td><td>164</td></tr><tr><td>(H28)</td><td>175</td></tr><tr><td>(H29)</td><td>158</td></tr><tr><td>(H30)</td><td>128</td></tr><tr><td>目標値 (R4)</td><td>200</td></tr></tbody></table>	年次	婚姻数	(H26)	170	(H27)	164	(H28)	175	(H29)	158	(H30)	128	目標値 (R4)	200
年次	婚姻数															
(H26)	170															
(H27)	164															
(H28)	175															
(H29)	158															
(H30)	128															
目標値 (R4)	200															
婚姻数																
基準値	目標値 (R4)															
175件 (H28年)	200件															
推移の分析・考えられる要因																
秋田県全体では年々減少傾向にある中、本市も減少に転じている。女性の転出増や未婚率の上昇、晩婚化などが影響しているものと考えられる。																
評価																
不調 (>_<)																

指 標		<table border="1"><caption>子どもを生み育てやすいと思う市民の割合 (市民意識調査)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H28</td><td>27.1</td></tr><tr><td>H29</td><td>27.4</td></tr><tr><td>H30</td><td>24.5</td></tr><tr><td>R1</td><td>26.5</td></tr><tr><td>R4 (目標値)</td><td>40.0</td></tr></tbody></table>	年度	割合 (%)	H28	27.1	H29	27.4	H30	24.5	R1	26.5	R4 (目標値)	40.0
年度	割合 (%)													
H28	27.1													
H29	27.4													
H30	24.5													
R1	26.5													
R4 (目標値)	40.0													
子どもを生み育てやすいと思う市民の割合 (市民意識調査)														
基準値	目標値 (R4)													
27.4% (H29年度)	40.0%													
推移の分析・考えられる要因														
結婚から出産・子育て期を切れ目なく支援するため、平成30年10月以降、子育て世代包括支援センターの設置、結婚・出産祝い金制度の実施、福祉医療費の拡充、保育所待機児童の発生防止対策、放課後児童クラブの新規整備等を実施したことが、前年度の減少から回復した要因と思われる。														
評価														
横ばい (--)														

指 標		<table><thead><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>26.0</td></tr><tr><td>H28</td><td>26.6</td></tr><tr><td>H29</td><td>26.2</td></tr><tr><td>H30</td><td>20.7</td></tr><tr><td>R1</td><td>25.5</td></tr><tr><td>R2</td><td>27.0</td></tr><tr><td>R3</td><td>28.0</td></tr><tr><td>R4</td><td>29.0</td></tr></tbody></table>	年度	割合 (%)	H27	26.0	H28	26.6	H29	26.2	H30	20.7	R1	25.5	R2	27.0	R3	28.0	R4	29.0
年度	割合 (%)																			
H27	26.0																			
H28	26.6																			
H29	26.2																			
H30	20.7																			
R1	25.5																			
R2	27.0																			
R3	28.0																			
R4	29.0																			
子育てを地域で支えあう雰囲気があると 思う市民の割合 (市民意識調査)																				
基準値	目標値 (R4)																			
26.2% (H29年度)	35.0%																			
推移の分析・考えられる要因																				
妊娠・出産・子育てに対する不安を払拭し相談体制の充実を図るため、平成30年10月に子育て世代包括支援センターを新設した。また、本年4月より、結婚・出産・子育てを地域で支える機運の醸成につなげるため、お祝い金による経済的支援を実施したこと等が、前年度の減少から回復した要因と思われる。																				
評価																				
横ばい (--)																				

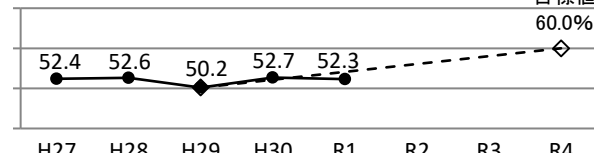
【政策の評価】

人口減少対策に効果を発揮するためにも、結婚祝い金や出産祝い金は、重点的に予算措置しても良いのではないかと考える。 また、婚姻数が増えれば、自然と出生数にも繋がると思われるが、出会いの場が少なくなっているため、入口の取組を強化する必要がある。 子育てや家事等、子育てに関わる人の負担がもっと軽減される社会になるよう、意識づくり・環境づくりを合わせて検討していく必要がある。	横ばい (--)
--	----------

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

政策(2)	次代を担う子どもを育てる学校教育
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

指 標			
子どもが地区でのびのびと育っていると思う市民の割合（市民意識調査）			
基準値	目標値（R4）		
50.2% (H29年度)	60.0%		
推移の分析・考えられる要因		目標値 60.0%	
小学校や中学校のふるさと教育において、地域のことを調べたり、地域の方々と一緒に活動したりするなど、地域に根ざした教育が行われていることによるものと思われる。			
		52.4 52.6 50.2 52.7 52.3	
		H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4	
		評価	
		横ばい (-_-)	

指 標			
地域の行事に参加している児童・生徒の割合			
基準値	目標値 (R4)		
69.3% (H28年度)	70.0%		

推移の分析・考えられる要因		評価
小学校、中学校ともにふるさと教育やキャリア教育など地域と関わる活動を充実させていることによるものと思われる。		横ばい (-)

75.0%	(H28)	目標値
70.0%	(H27) 65.1 (H29) 62.6 (H30) 65.8	70.0%
65.0%	(H26) 61.0	
60.0%		
	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4	

指 標		5校 0校 </
-----	--	--

指 標		<table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>出現率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>0.79</td></tr><tr><td>H28</td><td>0.78</td></tr><tr><td>H29</td><td>0.58</td></tr><tr><td>H30</td><td>0.72</td></tr><tr><td>R1</td><td>1.10</td></tr><tr><td>R2</td><td></td></tr><tr><td>R3</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td>0.60 (目標値)</td></tr></tbody></table>	年度	出現率 (%)	H27	0.79	H28	0.78	H29	0.58	H30	0.72	R1	1.10	R2		R3		R4	0.60 (目標値)
年度	出現率 (%)																			
H27	0.79																			
H28	0.78																			
H29	0.58																			
H30	0.72																			
R1	1.10																			
R2																				
R3																				
R4	0.60 (目標値)																			
不登校児童・生徒の出現率																				
基準値	目標値 (R4)																			
0.58% (H28年度)	0.60%																			
推移の分析・考えられる要因																				
家庭環境やスマホ、ゲーム依存等の要因が複合的に絡み不登校となっている児童生徒が増加している。	評価 不調 (>_<)																			

【政策の評価】

各指標の推移からは、総合的に横ばいと捉えることができるが、イベントや制度など個別の取組の周知が不足していることは否めない。親子はもちろんだが、子どもにない家庭も巻き込んだ取組も必要だと思われる。

また、「小中学生は多忙で学校以外の活動に時間を使えない」、「教員の業務量が過大になっている」等の事情を踏まえて、現場感覚の支援を充実させていく必要がある。

コミュニティ・スクールは、形だけでなく、内容の充実が必要である。

横ばい
(--)

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

政策(3)	地域や社会に活かす生涯学習・文化
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

指 標	
知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合(市民意識調査)	
基準値	目標値(R4)
19.8%(H29年度)	25.0%
推移の分析・考えられる要因	
知識や特技を地区活動等で発揮する市民の高齢化が進んでおり、後継・継承につながっていないと思われる。	
評価	
不調(>_<)	

指 標	
自主学習グループ数	
基準値	目標値(R4)
236団体(H28年度)	250団体
推移の分析・考えられる要因	
自主学習グループ会員の高齢化及び人口減少等による登録グループ数減少のため。新規に登録をする団体数が、登録を継続しない団体数より少ない。	
評価	
不調(>_<)	

指 標	
自主学習グループ会員数	
基準値	目標値(R4)
3,388人(H28年度)	3,500人
推移の分析・考えられる要因	
自主学習グループ会員の高齢化及び人口減少等による登録グループ数減少のため。1グループの平均会員数は13名(平成30年度)であるが、30年度に登録を休止した団体中、3グループが会員約50名の大型グループであり、影響があったと言える。	
評価	
不調(>_<)	

指 標	
地区の祭りや七夕・民俗芸能などへ参加を心がけている市民の割合(市民意識調査)	
基準値	目標値(R4)
30.5%(H29年度)	34.0%
推移の分析・考えられる要因	
担い手が高齢化していることに伴い、後継者が減少傾向にあるため。	
評価	
不調(>_<)	

指 標									
社会教育施設年間利用者数（スポーツ施設・図書館を除く）		360,000人	(H26)	(H28)	(H29)		目標値		
基準値	目標値（R4）		344,110	348,857	342,709	(H30)	350,000人		
348,857人 (H28年度)	350,000人	320,000人	341,610 (H27)			335,989			
								H27	H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4
推移の分析・考えられる要因								評価	
子ども館改修工事による休館や二ツ井町歴史資料館の閉館等による影響のほか、人口減少により各施設の利用者数も減少しているものと考えられる。								不調 (>_<)	

指 標									
図書館利用者数		150,000人	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	目標値		
基準値	目標値（R4）	100,000人	(H26)	114,806	109,719	110,233	114,362	120,000人	
109,719人 (H28年度)	120,000人	50,000人	90,115						
								H27	H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4
推移の分析・考えられる要因								評価	
能代図書館の利用者数はほぼ横ばいとなっているが、平成31年2月に開館した二ツ井図書館の利用者数が上乗せされたため。								順調 (^_^)	

【政策の評価】

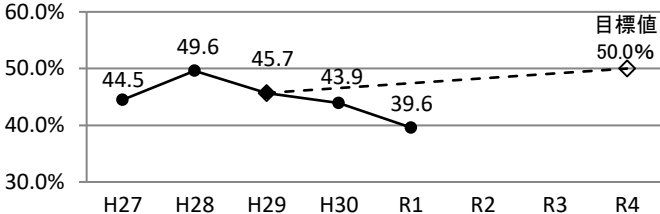
地域の行事等は参加者が減少しているだけでなく、存続自体が困難なケースもある。行政が積極的に関わって、広報やあっせんを行い、多世代が参加しやすい環境を整備していく必要がある。 社会教育施設や図書館などは、若年層や働く人たちを取り込めるように、イベントの充実等、施設の質を高めていく必要がある。	不調 (>_<)
---	-------------

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

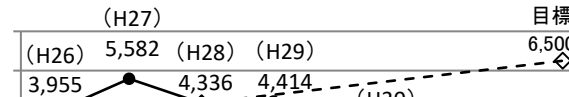
政策(4)	地域で活躍する元気な高齢者
-------	---------------

【基本計画の目標指標】

指 標		<table><thead><tr><th>年度</th><th>自立高齢者率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>79.4</td></tr><tr><td>H28</td><td>79.4</td></tr><tr><td>H29</td><td>79.1</td></tr><tr><td>H30</td><td>79.1</td></tr><tr><td>R1</td><td>78.8</td></tr><tr><td>R2</td><td>-</td></tr><tr><td>R3</td><td>-</td></tr><tr><td>R4</td><td>80.0</td></tr></tbody></table>	年度	自立高齢者率 (%)	H27	79.4	H28	79.4	H29	79.1	H30	79.1	R1	78.8	R2	-	R3	-	R4	80.0
年度	自立高齢者率 (%)																			
H27	79.4																			
H28	79.4																			
H29	79.1																			
H30	79.1																			
R1	78.8																			
R2	-																			
R3	-																			
R4	80.0																			
高齢者人口に対する自立高齢者率																				
基準値	目標値 (R4)																			
79.1% (H29年度)	80.0%																			
推移の分析・考えられる要因																				
高齢者の中でも、75歳以上の後期高齢者の割合が増えていることが要因と思われる。																				
評価																				
不調 (>_<)																				

指 標		
自治会・町内会や老人クラブ・ボランティア活動など、市民活動に参加することを心がけている高齢者の割合 (市民意識調査)		
基準値	目標値 (R4)	
45.7% (H29年度)	50.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
自治会・町内会の役員等、活発に市民活動を行っている人材は市全域で固定化する傾向にあること、そういった人材が高齢化により活動できなくなっていることが要因として考えられる。		不調 (>_<)

指 標		<table><thead><tr><th>年度</th><th>参加者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>(H26)</td><td>3,889</td></tr><tr><td>(H27)</td><td>4,434</td></tr><tr><td>(H28)</td><td>5,115</td></tr><tr><td>(H29)</td><td>4,997</td></tr><tr><td>(H30)</td><td>5,101</td></tr><tr><td>目標値</td><td>5,000人</td></tr></tbody></table>	年度	参加者数	(H26)	3,889	(H27)	4,434	(H28)	5,115	(H29)	4,997	(H30)	5,101	目標値	5,000人
年度	参加者数															
(H26)	3,889															
(H27)	4,434															
(H28)	5,115															
(H29)	4,997															
(H30)	5,101															
目標値	5,000人															
高齢者の生きがいと健康づくり事業参加者数																
基準値	目標値 (R4)															
5,115人 (H28年度)	5,000人															
推移の分析・考えられる要因																
事業を見直し、平成27年度より保坂福祉学園を開講し、趣味の講座を拡充したことが増加の要因と思われる																
評価																
順調 (^_^)																

指 標									
地域包括支援センター相談件数		目 標 値 6,500件							
基準値	目 標 値 (R4)								
4,336件 (H28年度)	6,500件								
推移の分析・考えられる要因									評価
平成30年度より能代地域も委託となった。直営時より相談件数が減少しているのは、全体的に周知不足であったことと、市・委託包括ともに各業務の実施手法や連携を模索しながらの活動であったことが主な要因と思われる。									不調 (>_<)

【政策の評価】

高齢者の運転免許証返納の流れで、今後も社会参加する高齢者が減少すると思われるため、行事等のPRや新しい参加者を取り込む方法に工夫が必要。

また、地域包括支援センターは、本来のあり方を踏まえて、相談に来るのを待つのではなく、自治会・町内会等にも積極的に出向く姿勢が求められる。

市の施策は数多く講じられているが、成果として現れていない現状を認識し、やりっぱなしではなく、しっかりとした検証の元で事業を実施するべき。

不調
(>_<)

(基本目標2 笑顔で人が輝くまち)

政策(5)	自立した暮らしを支える社会福祉・社会保障
-------	----------------------

【基本計画の目標指標】

指 標	50人 40人 30人 20人	目標値 42人
市の障がい者計画に基づき入所施設から地域生活へ移行する人数(H18年度からの累計)		
基準値	目標値(R4)	
30人 (H28年度)	42人	
推移の分析・考えられる要因		評価
移行後の生活を支えるサービス体制が徐々に整っているが、施設入所者は重度者が多く、地域生活への移行は緩やかとなっている。		横ばい (- -)

指 標	3.0% 2.5% 2.0%	目標値 2.7%
事業所における障がい者雇用率(能代山本)		
基準値	目標値(R4)	
2.46% (H28年度)	2.7%	
推移の分析・考えられる要因		評価
障がい者雇用に積極的に取り組む民間企業により、障がい者の雇用は増えているものの、健常者の雇用者数も増えているため、相対的に雇用率が低下した。		順調 (^ ^)

指 標	30.0% 20.0% 10.0% 0.0%	目標値 20.0%
障がいのある人も社会参加できる環境が整っていると思う市民の割合(市民意識調査)		
基準値	目標値(R4)	
14.1% (H29年度)	20.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
社会参加には人との関わりが伴うが、障がい者と一緒に活動する機会が少ないことが要因の一つとして考えられる。		横ばい (- -)

指 標	30.0% 20.0% 10.0%	目標値 22.3%
公共施設等のバリアフリー化の6項目クリア率		
基準値	目標値(R4)	
18.3% (H29年度)	22.3%	
推移の分析・考えられる要因		評価
6項目クリア率が5.1ポイント増加した。その要因は、既存施設の改修や道の駅ふたついの移転等により、クリアしている施設が19施設から23施設に増えたことと、対象施設が98施設から94施設に減ったことによる。		順調 (^ ^)

【政策の評価】

「障がいのある人が暮らしやすいまち」は「みんなが暮らしやすいまち」であるという基本に立ち返ると、障がい者の社会参加が進んでいないことについては、ハード面での環境整備が進んでいないことも要因の一つと考えられる。

公共施設のバリアフリー化は、目標値が低すぎるのではないか。本来は100%を目指すべきであり、実績だけ見れば、令和元年度は不調と判断できる。

横ばい
(--)

(基本目標3 豊かで活力あるまち)

政策(1)	地域特性を活かした産業創出
-------	---------------

【基本計画の目標指標】

指 標		200,000kW 100,000kW 0kW	
再生可能エネルギー導入量			
基準値	目標値(R4)		
68,650kW (H28年度)	158,000kW		
推移の分析・考えられる要因			評価
風力発電の複数の計画が事業化に向けて進んでいるものの、平成30年度は、新たな導入がなかったため。			横ばい (-)

指 標		3件 2件 1件 0件	
商工業振興促進条例に該当する資源リサイクル関連新設・増設企業数(5カ年累計)			
基準値	目標値(R4)		
1件 (H28年度)	2件		
推移の分析・考えられる要因			評価
増設に伴う設備投資が進められていたが、年度内の申請には至らず、平成30年度は新設・増設がなかったため。			横ばい (-)

指 標		600,000t 400,000t 200,000t	
能代港の取扱貨物量(能代火力発電所専用栈橋を除く)			
基準値	目標値(R4)		
353,655 t (H27年)	450,000 t		
推移の分析・考えられる要因			評価
原塩のほか、風力発電機、火力3号機関連部材の取扱貨物量が増加した。			横ばい (-)

【政策の評価】

再生可能エネルギーの導入量は事業者の意思に左右されるため、将来性は不明であり、評価が難しいと考える。 ただし、今回は基準値と比較して増加・減少・横ばいの数が同一であるため、総合的に横ばいと評価する。	横ばい (-)
--	------------

(基本目標3 豊かで活力あるまち)

政策(2)	雇用とにぎわいを生み出す商工業
-------	-----------------

【基本計画の目標指標】

指 標	※H29以前は単年度実績	目標値
商工業振興促進条例に該当する新設・増設企業数(5カ年累計)	(H26) (H27) (H28) (H29) (H30)	12件
基準値	6	
2件 (H28年度)	3 2 2	
	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4	
推移の分析・考えられる要因		評価
増設に伴う設備投資が進められていたが、年度内の申請には至らず、平成30年度は新設・増設がなかったため。		順調 (^-^)

指 標	※H29以前は単年度実績	目標値
創業者数(5カ年累計)	(H26) (H27) (H28) (H29) (H30)	30人
基準値	17	
12人 (H28年度)	1 8 12	
	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4	
推移の分析・考えられる要因		評価
起業等相談窓口の利用や創業塾受講等により創業に結びつくケースが増加した。		順調 (^-^)

指 標	※H29以前は単年度実績	目標値
新規学校卒業者就職率(能代山本)	(H26) (H27) (H28) (H29) (H30)	50.0%
基準値	44.1	
39.4% (H28年度)	41.5 36.9 39.4 44.1 44.4	
	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4	
推移の分析・考えられる要因		評価
県内の新規高卒者就職内定率が減少する中、管内の就職率は増加している。デュアルシステム・企業PR事業などにより、地元就職の意識が高まったと考えられる。		順調 (^-^)

指 標	※H29以前は単年度実績	目標値
空き店舗利活用件数(5カ年累計)	(H26) (H27) (H28) (H29) (H30)	10件
基準値	12	
5件 (H28年度)	3 3 5	
	H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4	
推移の分析・考えられる要因		評価
新規創業者向けの各種支援制度との制度間連携、民間事業者の取組等により、利活用件数が増加した。		順調 (^-^)

【政策の評価】

各指標の推移からは順調と評価できるが、能代市の商工業をトータル的に見た場合、実感として順調と評価できるかは難しい。工業統計の製品出荷額や商業統計の販売額、商工業に関わる雇用者数や能代市のGDP等と併せた評価が必要ではないかと考える。

一方で、人口減少が進んでいる状況を踏まえれば、今後、指標の実績が減少したとしても、人口減少率との比較により減少幅が緩やかであれば、プラスの評価をすることが考えられる。

廃業数も分析できるように、事業所数の推移も必要だと思われる。

順調
(^-^)

(基本目標3 豊かで活力あるまち)

政策(3)	豊かな自然や伝統・文化を活かした観光
-------	--------------------

【基本計画の目標指標】

指 標	2,000,000人	(H26)	(H29)	(H30)	目標値
観光客入込客数	1,800,000人	1,741,141	(H28)1,564,437	1,497,605	1,660,000人
基準値	1,600,000人	1,656,159			
目標値(R4)	1,400,000人				
1,564,437人 (H28年)					
1,660,000人					
推移の分析・考えられる要因					評価
平成30年7月に移転した道の駅ふたつへの入り込み客数が好調であったため。					順調 (^ - ^)

指 標	160,000人	(H26)	(H27)	(H28)	目標値
宿泊客数	140,000人	124,682	108,960	113,733	148,000人
基準値	120,000人				
目標値(R4)	100,000人				
113,733人 (H28年)					
148,000人					
推移の分析・考えられる要因					評価
火力発電所等のビジネス利用が好調であったためと考えられる。					順調 (^ - ^)

指 標	50.0%	(H26)	(H27)	(H28)	目標値
豊かな自然や特色ある郷土料理など、他に誇れる観光資源があると思う市民の割合(市民意識調査)	45.0%	40.8	40.6	41.8	50.0%
基準値	40.0%				
目標値(R4)	35.0%				
41.8% (H29年度)	30.0%				
50.0%					
推移の分析・考えられる要因					評価
白神山地の眺望、日本海、風の松原などの自然や、だまこ鍋などの郷土料理は、日常の中に溶け込んでいるため、観光資源として意識することが低いと考えられる。					横ばい (- -)

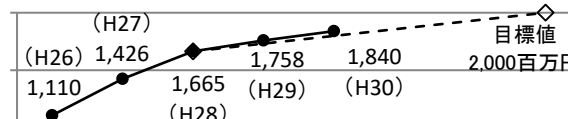
【政策の評価】

指標の推移が増加に転じているのは、道の駅ふたついの開設や火力発電所の建設による効果の大きい部分もあるが、今後も、火力発電所のメンテナンス、あきた白神ツーリズムによるインバウンド戦略、オリンピックのホストタウン等、期待値の高い取組等が揃っている。	順調 (^ - ^)
--	---------------

(基本目標3 豊かで活力あるまち)

政策(4)	力強く持続する農業
-------	-----------

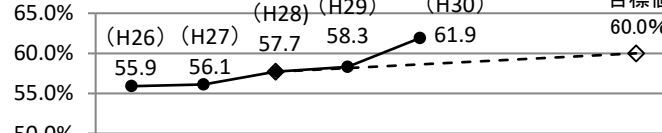
【基本計画の目標指標】

指 標			
戦略作物 5 品目の生産出荷額			
基準値	目標値 (R4)		
1,665百万円 (H28年度)	2,000百万円		
推移の分析・考えられる要因			評価
天候等により変動はあるが、ネギを中心に出荷数量が増加し、単価も堅調に推移したことから、5 品目合計の出荷額は増加した。また、農産物の消費拡大のため、トップセールスやイベントでの P R 活動等により有利販売に努めている。			順調 (^_^)

指 標		※H29以前は単年度実績 (H29) (H30) 目標値									
新規就農者数（5カ年累計）		60人	(H26)	(H27)	(H28)	38	○ 47	50人	目標値		
基準値	目標値（R4）	40人	12	20	18						
18人 (H28年度)	50人	20人									
		0人									
推移の分析・考えられる要因											
国の「農の雇用事業」や「農業次世代人材投資事業」の活用等により、新規就農者数が増えたと考えられる。従来は跡継ぎ就農が主体であったが、近年は新規参入や法人への雇用型就農者が増えている。										評価	
										順調 (^_^)	

指 標		推移の分析・考えられる要因										評価
農業法人数		ほ場整備実施に伴い法人が新設された。										順調 (^_^)
基準値	目標値 (R4)											
21法人 (H28年度)	25法人											

年度	法人数	種別
H27	18	実績
H28	20	実績
H29	21	実績
H30	24	実績
R1	28	実績
R2	-	-
R3	-	-
R4	25	目標

指 標									
担い手農地集積率									
基準値	目標値 (R4)							目標値	
57.7% (H28年度)	60.0%							60.0%	
推移の分析・考えられる要因									評価
新設法人の増加と、新規就農者の増加に伴う集積面積の増による。									順調 (^_^)

【政策の評価】

すべて順調に推移しており、順調と評価できる。
“持続する”農業ということを考えた場合、若い就農者の増加は良い傾向にある。農業には定年がないことが魅力の1つである。
また、国策として、兼業農家から専業農家に集約していく取組が順調に進んでいることも、順調に推移している要因の1つだと思われる。
就農者の年齢データや後継者の有無、離農者の数等、他の角度からの分析も必要。

順調
(^-^)

(基本目標3 豊かで活力あるまち)

政策(5)	山・川・海を生かす林業・木材産業・水産業
-------	----------------------

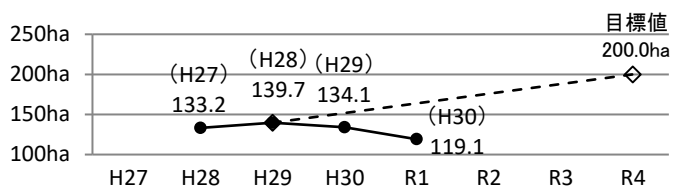
【基本計画の目標指標】

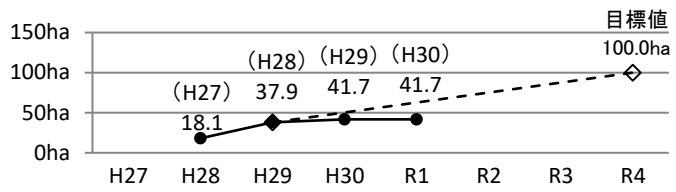
指 標	20,000百万円	(H25) (H26)	目標値
木材製品出荷額	10,000百万円	14,013 (H27) 13,976 (H28) 9,001 (H29) 8,645 (H30)	10,000百万円
基準値	目標値 (R4)		
9,001百万円 (H27年)	10,000百万円		
推移の分析・考えられる要因			
※R1 (H29) の数値は、平成30年工業統計調査の公表後に確定する。			
評価			
—			

指 標	100.0%	目標値
日常的に木製品の使用を心がけている市民の割合 (市民意識調査)	50.0%	50.0%
基準値	目標値 (R4)	
—	50.0%	
推移の分析・考えられる要因		
住宅を例に考えると、洋風化による和室や化粧材の需要の減少が考えられ、大壁工法の進展による化粧性より性能を重視する傾向が見られる。		
評価		
横ばい (—)		

指 標	60.0%	目標値
木のぬくもりや木のまちとしての雰囲気があると思う市民の割合 (市民意識調査)	50.0%	50.0%
基準値	目標値 (R4)	
35.2% (H29年度)	50.0%	
推移の分析・考えられる要因		
公共施設の木質化は進んでいるが、商業施設や病院など人の出入りが多い施設は木質化がそれほど進んでいないことが要因のひとつとして考えられる。		
評価		
不調 (>_<)		

指 標	10件	目標値
秋田スギCLTの使用件数 (5カ年累計)	5件	5件
基準値	目標値 (R4)	
0件 (H29年度)	5件	
推移の分析・考えられる要因		
市内唯一、CLT技術認証を取得していた事業所が廃業するなど、検討課題がある。		
評価		
不調 (>_<)		

指 標		
人工林間伐面積		
基準値	目標値 (R4)	
139.7ha (H28年度)	200.0ha	
推移の分析・考えられる要因		評価
森林所有者の高齢化や、採算性の低下により、多くの森林所有者が、間伐を行うことをためらっていると考えられる。		不調 (>_<)

指 標		
皆伐後の植栽面積		
基準値	目標値 (R4)	
37.9ha (H28年度)	100.0ha	
推移の分析・考えられる要因		評価
木材価格が安いことや、安定した木材需要が見通せないこと、林業経営のスパンが50年～80年と長期間に渡り、管理する担い手が不足していることから、年平均20ha以下と低い水準になっている。		横ばい (-_-)

【政策の評価】

市の施策である秋田スギの内外装補助の利用件数が増加していることは評価できるが、全体として指標の推移が低調であるため、不調と評価する。 気軽に木製品を購入できる場所もなく、市民に対するPRも足りていないと思われる、今後、市民の木に関する意識が高くなると、木材産業に対する市民からの支持・支援に繋がらず、各指標の伸びも期待できない。 CLTは市内事業者がいなかったため、指標を再考するべきではないか。 内外装の補助事業で使用した木材量の指標も評価材料の1つになる。	不調 (>_<)
--	-------------

(基本目標 4 安心して暮らしやすいまち)

政策 (1)	安全な暮らしを守る防災・防犯体制
--------	------------------

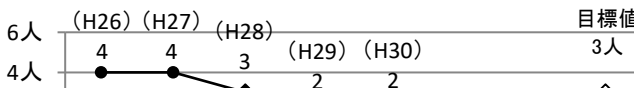
【基本計画の目標指標】

指 標	図 表
災害などもしもの場合に普段から備えることを心がけている市民の割合 (市民意識調査)	
基準値	目標値 (R4)
39.9% (H29年度)	50.0%
推移の分析・考えられる要因	
近年、能代市における大規模災害の発生がないため、平時においては住民の防災に関する意識は希薄になってきており、その結果横ばいとなっている。出前講座や訓練等により防災意識の向上を図っていききたい。	
評価	
横ばい (--)	

指 標	図 表
消防団員の定員の充足率	
基準値	目標値 (R4)
83.2% (H29年度)	90.0%
推移の分析・考えられる要因	
人口減少や高齢化などの社会情勢の変化に伴い新規団員の加入が見込めず、減少傾向にある。 ※消防団員の定員の充足率は「不調」の自己評価だが、現在、消防団員の再編も進められているほか、9月時点での機能別団員を含め、充足率は85.1%となっており、横ばいの評価でも良いと思われる。	
評価	
横ばい (--)	

指 標	図 表
自主防災組織数 ※組織=自治会・町内会数	
基準値	目標値 (R4)
5組織 (H29年度)	155組織
推移の分析・考えられる要因	
出前講座で防災に関する情報提供を積極的に行った。	
評価	
順調 (^-^)	

指 標	図 表
能代警察署管内の犯罪件数	
基準値	目標値 (R4)
257件 (H28年)	200件
推移の分析・考えられる要因	
防犯協会・防犯指導隊による活動の成果と考えられる。 主な活動内容としては、月に5回青色回転灯車両を用いた市内巡回活動や防犯職の掲示、広報啓発活動を行っている。	
評価	
順調 (^-^)	

指 標									
能代警察署管内の交通事故死者数		6人	(H26)	(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	目標値	3人
基準値	目標値 (R4)	4人							
3人 (H28年)	3人	2人 <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>							
推移の分析・考えられる要因									評価
交通指導隊による活動の成果と考えられる。 主な活動としては、交通指導車による市内巡回、市内イベント等における交通指導員の派遣、広報紙による注意喚起などがある。									順調 (^-^)

【政策の評価】

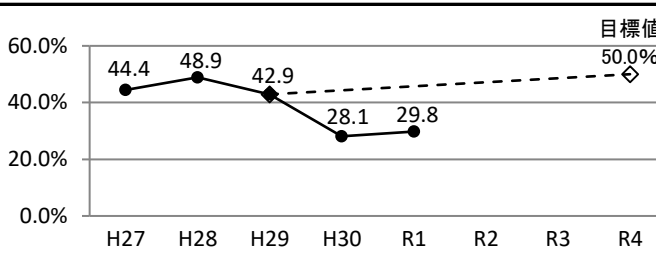
消防団員の定員の充足率は「不調」の評価だが、現在、消防団員の再編も進められているほか、9月時点での機能別団員を含め、充足率は85.1%となっており、横ばいの評価でも良いと思われる。全体としては、横ばいと評価する。	横ばい (--)
--	-------------

(基本目標 4 安心して暮らしやすいまち)

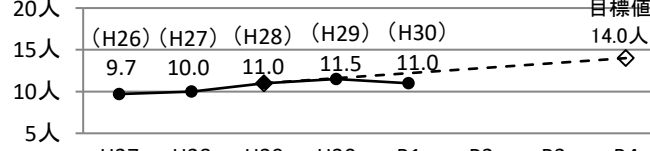
政策 (2)	機能的で利用しやすい道路・交通ネットワーク
--------	-----------------------

【基本計画の目標指標】

指 標		<table><caption>道路の整備延長 (改良率) 推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>57.2</td></tr><tr><td>H28</td><td>57.4</td></tr><tr><td>H29</td><td>57.5</td></tr><tr><td>H30</td><td>57.8</td></tr><tr><td>R4 (目標値)</td><td>58.0</td></tr></tbody></table>	年度	値 (%)	H27	57.2	H28	57.4	H29	57.5	H30	57.8	R4 (目標値)	58.0
年度	値 (%)													
H27	57.2													
H28	57.4													
H29	57.5													
H30	57.8													
R4 (目標値)	58.0													
道路の整備延長 (改良率)														
基準値	目標値 (R4)													
57.5% (H29年度)	58.0%													
推移の分析・考えられる要因		評価												
道路改良を実施したことにより改良済み道路が増えたことによるもの。		順調 (^_^)												

指 標		 <table><caption>地域住民やボランティアによる除排雪の協力体制が整っており、冬も安全に生活ができると感じる市民の割合</caption><thead><tr><th>年度</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>44.4</td></tr><tr><td>H28</td><td>48.9</td></tr><tr><td>H29</td><td>42.9</td></tr><tr><td>H30</td><td>28.1</td></tr><tr><td>R1</td><td>29.8</td></tr><tr><td>R4 (目標値)</td><td>50.0</td></tr></tbody></table>	年度	値 (%)	H27	44.4	H28	48.9	H29	42.9	H30	28.1	R1	29.8	R4 (目標値)	50.0
年度	値 (%)															
H27	44.4															
H28	48.9															
H29	42.9															
H30	28.1															
R1	29.8															
R4 (目標値)	50.0															
地域住民やボランティアによる除排雪の協力体制が整っており、冬も安全に生活ができると感じる市民の割合（市民意識調査）																
基準値	目標値（R4）															
42.9% （H29年度）	50.0%															

推移の分析・考えられる要因	評価
地域住民の高齢化や減少等により地域ぐるみで除排雪の取組が難しくなっている。市では、排雪作業にかかる機械の貸出し等の支援により若干ながら地域住民による取り組みが増えてきたものとする。 （機械貸出し H29利用自治会 2件→H30利用自治会 9件） ※冬も安全に生活ができると感じる市民の割合は、自己評価では「不調」だが、機械の貸し出し等、市では様々な取組をしており、実感としては悪くなっているとは考えにくく、横ばいの評価でも良いと思われる。	横ばい （--）

指 標		 <table><caption>巡回バスの1便平均利用者数 推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>値 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>9.7</td></tr><tr><td>H28</td><td>10.0</td></tr><tr><td>H29</td><td>11.0</td></tr><tr><td>H30</td><td>11.5</td></tr><tr><td>R1</td><td>11.0</td></tr><tr><td>R4 (目標値)</td><td>14.0</td></tr></tbody></table>	年度	値 (人)	H27	9.7	H28	10.0	H29	11.0	H30	11.5	R1	11.0	R4 (目標値)	14.0
年度	値 (人)															
H27	9.7															
H28	10.0															
H29	11.0															
H30	11.5															
R1	11.0															
R4 (目標値)	14.0															
巡回バスの1便平均利用者数																
基準値	目標値 (R4)															
11.0人 (H28年度)	14.0人															

推移の分析・考えられる要因		評価
運行開始から数年が経過し、利用の定着が図られたものと考えられる。冬期間等の天候により利用者数は増減するが、平成30年度は積雪が少なく、利用者が減少した。		横ばい (--)

【政策の評価】

冬も安全に生活ができると感じる市民の割合は、自己評価では「不調」だが、機械の貸し出し等、市では様々な取組をしており、実感としては悪くなっているとは考えにくく、横ばいの評価でも良いと思われる。 冬も安全に生活ができると感じる市民の割合は、その年の降雪量にも左右されると思われるため、指標としての設定が正しいか疑問がある。	横ばい (--)
--	----------

(基本目標4 安心して暮らしやすいまち)

政策(3)	快適で暮らしやすい住環境
-------	--------------

【基本計画の目標指標】

指 標									
住宅耐震化率	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H25)</td> <td>65.5</td> </tr> <tr> <td>(H27)</td> <td>66.3</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	数値 (%)	(H25)	65.5	(H27)	66.3	目標値	75.0%
年度	数値 (%)								
(H25)	65.5								
(H27)	66.3								
目標値	75.0%								
基準値	目標値 (R4)								
66.3% (H27年度)	75.0%								
推移の分析・考えられる要因									
※年度末にR1 (H29) の数値が確定する。									
評価									
—									

指 標															
水道普及率	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H25)</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>(H26)</td> <td>88.9</td> </tr> <tr> <td>(H27)</td> <td>90.7</td> </tr> <tr> <td>(H28)</td> <td>90.8</td> </tr> <tr> <td>(H29)</td> <td>91.6</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>92.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	数値 (%)	(H25)	88.2	(H26)	88.9	(H27)	90.7	(H28)	90.8	(H29)	91.6	目標値	92.0%
年度	数値 (%)														
(H25)	88.2														
(H26)	88.9														
(H27)	90.7														
(H28)	90.8														
(H29)	91.6														
目標値	92.0%														
基準値	目標値 (R4)														
90.7% (H27年度)	92.0%														
推移の分析・考えられる要因															
二ツ井・荷上場地区簡易水道の加入が増加したため、普及率が向上した。															
評価															
順調 (^^)															

指 標															
汚水処理人口普及率	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H26)</td> <td>68.4</td> </tr> <tr> <td>(H27)</td> <td>69.3</td> </tr> <tr> <td>(H28)</td> <td>70.7</td> </tr> <tr> <td>(H29)</td> <td>72.0</td> </tr> <tr> <td>(H30)</td> <td>73.5</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>78.9%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	数値 (%)	(H26)	68.4	(H27)	69.3	(H28)	70.7	(H29)	72.0	(H30)	73.5	目標値	78.9%
年度	数値 (%)														
(H26)	68.4														
(H27)	69.3														
(H28)	70.7														
(H29)	72.0														
(H30)	73.5														
目標値	78.9%														
基準値	目標値 (R4)														
70.7% (H28年度)	78.9%														
推移の分析・考えられる要因															
落合地区、河戸川地区、鵜飼地区の処理区域面積(整備面積)を拡大したため、普及率が向上した。															
評価															
順調 (^^)															

指 標									
公園や緑地の景観が維持されていると思う市民の割合(市民意識調査)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(H30)</td> <td>51.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>48.9</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>基準値以上</td> </tr> </tbody> </table>	年度	数値 (%)	(H30)	51.0	R1	48.9	目標値	基準値以上
年度	数値 (%)								
(H30)	51.0								
R1	48.9								
目標値	基準値以上								
基準値	目標値 (R4)								
51.0% (H30年度)	基準値以上								
推移の分析・考えられる要因									
公園愛護会等の地域住民の協力を得ながら公園施設の点検・清掃等を行っているほか、自治会等への花苗の無料配布を活用した市民の緑化活動により、市民の緑化に対する意識の高揚が図られている。									
評価									
横ばい (--)									

【政策の評価】

水道普及率及び污水处理人口普及率は順調に推移しており、全体としても順調と評価する。

順調
(^_^)

(基本目標4 安心して暮らしやすいまち)

政策(4)	自然と共生し持続できる環境・衛生
-------	------------------

【基本計画の目標指標】

指 標	100.0% 90.0% 80.0%	目標値 92.0%
限りある資源を大切にすため、紙類などを資源ごみに分別することを心がけている市民の割合(市民意識調査)	91.6 89.5 92.6 85.3 86.7	
基準値	目標値(R4)	
92.6% (H29年度)	92.0%	
推移の分析・考えられる要因		評価
分別が定着してきており、強く意識しなくても分別ができることとなったことによる減少の傾向。 ※数値は下がっているが、リサイクル率が上昇し、市民に分別が定着している現状からは、順調と評価できる		順調 (^_^)

指 標	550g 525g 500g	目標値 512g
1人1日当たり家庭系ごみ排出量(リサイクルできるものを除く)	534 534 527 530 534	
基準値	目標値(R4)	
527g (H28年度)	512g	
推移の分析・考えられる要因		評価
家屋解体に伴う一般廃棄物の増によるごみ排出量の増。 ※排出量が増加した理由は、市民の意識等とは関係なく、やむを得ない面もあり、横ばいと評価できる。		横ばい (-_-)

指 標	10.00% 8.00% 6.00%	目標値 8.70%
リサイクル率(能代市回収分)	8.60 8.35 8.11 8.02	
基準値	目標値(R4)	
8.11% (H28年度)	8.70%	
推移の分析・考えられる要因		評価
広報での周知やモア・リサイクルプランの事業による廃棄物減量等推進員に対する研修会、ごみ分別冊子・ポスターの配布等により分別が定着してきたことによる増加の傾向。		順調 (^_^)

指 標	35団体 30団体 25団体	目標値 33団体
のしろクリーンパートナー登録団体数	26 27 28 29 29	
基準値	目標値(R4)	
28団体 (H28年度)	33団体	
推移の分析・考えられる要因		評価
広報のしろ等での周知により、登録団体数が増えている。		横ばい (-_-)

【政策の評価】

分別することを心がけている市民の割合は、数値は下がっているが、リサイクル率が上昇し、市民に分別が定着している現状からは、順調と評価できる。また、1人1日当たり家庭系ごみ排出量が増加した理由は、市民の意識等とは関係なく、やむを得ない面もあり、横ばいと評価できる。以上も踏まえ、全体と評価としては順調と評価できる。

順調
(^-^)

(基本目標4 安心して暮らしやすいまち)

政策(5)	調和のとれた有効な土地利用
-------	---------------

【基本計画の目標指標】

指 標		<table border="1"><caption>空き店舗率の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>23.9</td></tr><tr><td>H28</td><td>20.8</td></tr><tr><td>H29</td><td>20.8</td></tr><tr><td>H30</td><td>22.1</td></tr><tr><td>R1</td><td>-</td></tr><tr><td>R2</td><td>-</td></tr><tr><td>R3</td><td>-</td></tr><tr><td>R4 (目標)</td><td>20.5</td></tr></tbody></table>	年度	率 (%)	H27	23.9	H28	20.8	H29	20.8	H30	22.1	R1	-	R2	-	R3	-	R4 (目標)	20.5
年度	率 (%)																			
H27	23.9																			
H28	20.8																			
H29	20.8																			
H30	22.1																			
R1	-																			
R2	-																			
R3	-																			
R4 (目標)	20.5																			
中心市街地活性化重点区域の空き店舗率																				
基準値	目標値 (R4)																			
20.8% (H29年度)	20.5%																			
推移の分析・考えられる要因		評価																		
後継者不在のほか、建物自体が老朽化し、店舗としての利活用が難しいことや、利用条件や家賃などで貸す側と借りる側のニーズがマッチしないことなどが要因として考えられる。		横ばい (-)																		

指 標		<table><thead><tr><th>年次</th><th>通行量(人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>(H26)</td><td>3,936</td></tr><tr><td>(H27)</td><td>3,967</td></tr><tr><td>(H28)</td><td>3,579</td></tr><tr><td>(H29)</td><td>3,594</td></tr><tr><td>(H30)</td><td>3,497</td></tr><tr><td>目標値(R4)</td><td>4,000</td></tr></tbody></table>	年次	通行量(人)	(H26)	3,936	(H27)	3,967	(H28)	3,579	(H29)	3,594	(H30)	3,497	目標値(R4)	4,000
年次	通行量(人)															
(H26)	3,936															
(H27)	3,967															
(H28)	3,579															
(H29)	3,594															
(H30)	3,497															
目標値(R4)	4,000															
中心市街地の歩行者・自転車の通行量																
基準値	目標値 (R4)															
3, 579人 (H28年度)	4, 000人															
推移の分析・考えられる要因		評価														
金融機関や高校の統合による移転、当該地区の人口減少等の結果、通行量は減少傾向にある。		横ばい (--)														

指 標		<table><thead><tr><th>年次</th><th>人口</th></tr></thead><tbody><tr><td>(H26)</td><td>12,416</td></tr><tr><td>(H27)</td><td>12,289</td></tr><tr><td>(H28)</td><td>12,066</td></tr><tr><td>(H29)</td><td>11,824</td></tr><tr><td>(H30)</td><td>11,522</td></tr><tr><td>目標値 (R4)</td><td>12,000</td></tr></tbody></table>	年次	人口	(H26)	12,416	(H27)	12,289	(H28)	12,066	(H29)	11,824	(H30)	11,522	目標値 (R4)	12,000
年次	人口															
(H26)	12,416															
(H27)	12,289															
(H28)	12,066															
(H29)	11,824															
(H30)	11,522															
目標値 (R4)	12,000															
中心市街地区域内の居住人口																
基準値	目標値 (R4)															
12,066人 (H28年度)	12,000人															

推移の分析・考えられる要因		評価
少子高齢化等により減少傾向にある。		横ばい (-)

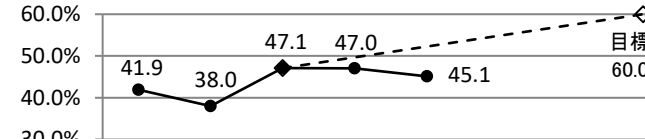
【政策の評価】

中心市街地活性化計画重点区域の空き店舗率は、店舗が増えておらず、中心市街地の歩行者・自転車の通行量も少なくなっている。実感としては厳しく、横ばいの評価に疑問はあるが、全体としては横ばいと評価する。	横ばい (-)
---	------------

(基本目標 4 安心して暮らしやすいまち)

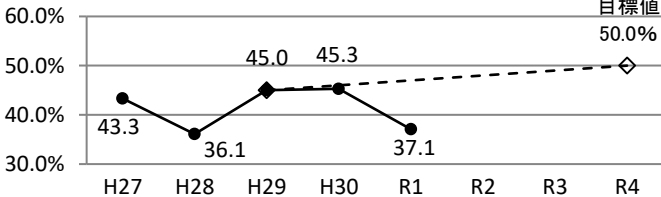
政策 (6)	住民サービスに資する効率的な行財政基盤
--------	---------------------

【基本計画の目標指標】

指 標		 <table><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr><tr><td>H27</td><td>41.9</td></tr><tr><td>H28</td><td>38.0</td></tr><tr><td>H29</td><td>47.1</td></tr><tr><td>H30</td><td>47.0</td></tr><tr><td>R1</td><td>45.1</td></tr><tr><td>目標値</td><td>60.0</td></tr></table>	年度	割合 (%)	H27	41.9	H28	38.0	H29	47.1	H30	47.0	R1	45.1	目標値	60.0
年度	割合 (%)															
H27	41.9															
H28	38.0															
H29	47.1															
H30	47.0															
R1	45.1															
目標値	60.0															
市職員は日頃仕事をよくやっていると思う市民の割合（市民意識調査）																
基準値	目標値（R4）															
47.1% （H29年度）	60.0%															
推移の分析・考えられる要因																
昨年と比較し減少したが、過去の実績と比較した場合は上昇傾向にある。 人材育成基本方針に基づき、市民が求める職員像を目指した研修の実施等により、接遇に関する意識や対応が改善されてきていると考える。																
評価																
横ばい （―）																

指 標		<table><tr><th>年度</th><th>延床面積 (万㎡)</th></tr><tr><td>H26</td><td>28.7</td></tr><tr><td>H27</td><td>28.7</td></tr><tr><td>H28</td><td>28.7</td></tr><tr><td>目標値 (R4)</td><td>27.3</td></tr></table>	年度	延床面積 (万㎡)	H26	28.7	H27	28.7	H28	28.7	目標値 (R4)	27.3
年度	延床面積 (万㎡)											
H26	28.7											
H27	28.7											
H28	28.7											
目標値 (R4)	27.3											
公共施設の延床面積												
基準値	目標値 (R4)											
28.7万㎡ (H26年度)	27.3万㎡											

推移の分析・考えられる要因		評価
公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定中であり、計画策定後、進 行管理をしていくこととしている。		横ばい (--)

指 標		 <table><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr><tr><td>H27</td><td>43.3</td></tr><tr><td>H28</td><td>36.1</td></tr><tr><td>H29</td><td>45.0</td></tr><tr><td>H30</td><td>45.3</td></tr><tr><td>R1</td><td>37.1</td></tr><tr><td>目標値 (R4)</td><td>50.0</td></tr></table>	年度	割合 (%)	H27	43.3	H28	36.1	H29	45.0	H30	45.3	R1	37.1	目標値 (R4)	50.0
年度	割合 (%)															
H27	43.3															
H28	36.1															
H29	45.0															
H30	45.3															
R1	37.1															
目標値 (R4)	50.0															
市の財政状況などについて情報提供が行われていると思う市民の割合（市民意識調査）																
基準値	目標値（R4）															
45.0% （H29年度）	50.0%															
推移の分析・考えられる要因		評価														
わかりやすい予算書の発行、広報のしろやホームページへの掲載、地元新聞社への情報提供など従来からの手法で情報提供を続けているが、市民からより関心を持ってもらうよう工夫したい。		不調 (>_<)														

【政策の評価】

市職員の評価については、たとえ良くやっていることであっても、いつか当たり前と思われるようになる。 また、財政状況については、そもそも市民に財政状況を理解してもらうこと自体が難しいとも考えられる。 以上のことも踏まえ、不調の項目はあるものの、おおむね横ばいの傾向にあり、全体としては横ばいと評価する。	横ばい (--)
--	----------